

ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」

平成 22 年 4 月 1 日

各 位

上場会社名 モジュール株式会社

(コード番号 3043 : 大証ヘラクレス)

代 表 者 代 表 取 締 役 松 村 明

問 合 せ 先 管理担当ゼネラルマネージャー

藤 井 隆 徳

平成 22 年 3 月期(第 11 期) 第 3 四半期の業績概況について

当社は、平成 22 年 3 月 18 日開催の臨時株主総会において、「定款の一部変更」議案を上程し承認可決されたため、決算期末が 3 月 31 日となりました。従って、決算期変更の経過期間となる第 11 期は、平成 21 年 6 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの 10 ヶ月間となります。また、第 3 四半期報告書(平成 21 年 6 月 1 日から平成 22 年 2 月 28 日)につきましては、「企業内容等の開示に関する留意事項について」24 の 4 の 7-1 に則り、提出は行いません。

(ご参考) 「企業内容等の開示に関する留意事項について」24 の 4 の 7-1

定款に規定する事業年度を変更した場合において、その変更した最初の事業年度の期間が 3 月を超える場合には、四半期報告書の提出を要するものとする。

ただし、当該四半期報告書の提出期限内に最初の事業年度の末日が到来する場合には、四半期報告書を提出しないことができる。

このため、第 3 四半期決算短信を作成しないことにいたしました。しかしながら、株主および投資家の皆様に適切な情報をご提供するため、当第 3 四半期の業績概況を以下の通りお知らせいたします。

記

業績概況

1. 平成 22 年 3 月期第 3 四半期の業績(平成 21 年 6 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)

(1) 経営成績(累計)

(百万円未満切捨て)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22 年 3 月期第 3 四半期	878	△17.2%	93	—	90	—	69	—
21 年 5 月期第 3 四半期	1,060	—	△20	—	△271	—	△440	—

	1 株当たり四半期純利益		潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22 年 3 月期第 3 四半期	5,051.	03	—	—
21 年 5 月期第 3 四半期	△32,124.	39	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1 株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
22 年 3 月期第 3 四半期	1,048		159		15.2		11,626.	13
21 年 5 月期	1,257		99		7.1		6,521.	74

(参考) 自己資本 22 年 3 月期第 3 四半期 159 百万円 21 年 5 月期 89 百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年5月期	—	—	—	—	—
22年5月期	—	—	—	—	—
22年5月期 (予想)	—	—	—	—	—

3. 平成22年3月期の業績予想（平成21年6月1日～平成22年3月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	984	△28.7%	93	933.3%	90	—	52	—	3,866.50

(注) 平成22年3月期は、平成21年6月1日から平成22年3月31日の10ヶ月決算となります。

4. その他

(1) 会計処理について

- ①この業績概況は、監査法人による四半期レビューを受けておりません。
- ②通常決算業務の内、減価償却費の端数調整と税効果会計適用の検討は行っておりません。

(2) 発行済株式数（普通株式）

①期末発行済株式数（自己株式を含む）	平成22年3月期第3四半期	13,700株	平成21年5月期	13,700株
②期末自己株式数	平成22年3月期第3四半期	—株	平成21年5月期	—株
③期中平均株式数（四半期累計期間）	平成22年3月期第3四半期	13,700株	平成21年5月期第3四半期	13,700株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

定性的情報

1. 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善傾向や、設備投資が下げ止まりつつあり、個人消費は持ち直しが見られるなど、景気は着実に持ち直してきているものの、海外景気の下振れ懸念、デフレの影響など、景気を下押しするリスクが存在し、失業率が高水準にあるなど、本格的な景気回復にはなお自律性に乏しく、厳しい経済環境が続いております。

当社の事業分野であるIT関連業界におきましても、景気後退の影響と企業収益の悪化により新規投資は減少しており、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、事業の長期的で堅実な成長の為に「本業である企業向けの継続的ITサービスへの集中」、「全社的な業務効率化の推進」、「中堅人材の育成強化」などに取り組んでまいりました。

・ITサービス売上

「一過性のITサービス」の売上は、企業収益の減少によるIT投資の先送りなどの影響を受けたものの、当社の本業である「継続的ITサービス」の売上は、堅調に維持拡大を続けております。

その結果、「ITサービス」全体の売上高は、708,811千円（前年同四半期比2.9%増）となりました。

・商品売上

商品売上は、引続き景気後退などの影響による企業のIT投資抑制の影響を受け、厳しい事業環境が続きました。その結果、商品売上は169,241千円（前年同四半期比54.4%減）となりました。

また、費用面につきましては、前事業年度より実施している「コスト適正化計画」の効果によって、販売費及び一般管理費が減少し、利益確保できる体質に変化しつつあります。

なお、過年度決算訂正にかかる費用を特別損失として計上いたしました。これは、当事業年度のみ発生する費用であります。

以上により、当第3四半期累計期間の業績は、売上高878,052千円（前年同四半期比17.2%減）、営業利益93,885千円（前年同四半期は20,048千円の営業損失）、経常利益90,449千円（前年同四半期は271,900千円の経常損失）、四半期純利益69,199千円（前年同四半期は440,104千円の四半期純損失）となりました。

2. 業績予想に関する定性的情報

決算期変更に伴い、平成22年3月期（第11期）の通期業績予想を、平成22年3月24日に公表しております。

平成22年3月期通期(平成21年6月1日～平成22年3月31日)業績予想

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
平成22年3月期（予想）	984	93	90	52	円 銭 3,866.50
（ご参考）前期実績（平成21年5月期）	1,381	9	△241	△459	△33,552.62

（注）平成22年3月期は、平成21年6月1日から平成22年3月31日の10ヶ月決算となります。

以上